

## 様式第3号

## 会 議 録

|                        |     |   |         |
|------------------------|-----|---|---------|
| 会 議 名<br>(審議会等名)       |     | 第2回 川西市青少年問題協議会   |         |
| 事 務 局<br>(担 当 課)       |     | 生涯学習部 人権・地域教育推進室 内線(3441)   |         |
| 開 催 日 時                |     | 平成17年12月20日(火)午後10時~午後11時30分  |         |
| 開 催 場 所                |     | 市役所 4階 庁議室  |         |
| 出 席 者                  | 委 員 | 柴生進、堀田啓子、村木修、多久和桂子、鴨川俊行(代理)、<br>武村雅樹、松尾幸恵、村主弘明、並河毅、上田恵子、秋田修一、<br>木田幾子、澁野敏彦、佐渡進三、宮路尊士、鈴木富士雄、<br>長船幸夫、佐伯直樹                |         |
|                        | 事務局 | 生涯学習部長 小山万二<br>人権・地域教育推進室長 玉邑一夫<br>地域教育推進担当主査 羽瀬克彦、升村誠志   |         |
| 傍聴の可否                  |     | <input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可  | 傍聴者数 0人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、<br>その理由 |     |   |         |
| 会 議 次 第                |     | 1.開会<br>2.委員の委嘱、新委員あいさつ<br>3.会長あいさつ<br>4.協議事項<br>(1)「青少年の表彰」被表彰者について<br>(2)川西市青少年育成フォーラムについて<br>5.意見交換<br>6.その他<br>7.閉会 |         |
| 会 議 結 果                |     | 4.協議事項<br>(1)了承<br>表彰の規準の再検討。及び選考委員会等の検討。<br>(2)実行委員会(案)で了承<br>5.意見交換<br>「完全学校週5日制に伴う児童生徒の実態調査」結果報告に<br>ついて協議           |         |

## 審 議 経 過

### 1. 開会(10:00)

### 2. 委員の委嘱について

川西市議会 文教公企常任委員長 多久和 桂子 様

### 新委員あいさつ

### 3. 会長あいさつ(柴生 進 市長)

### 4. 協議事項

#### 協議事項(1)「青少年の表彰」被表彰者の推薦について

<事務局説明> 被表彰候補者の説明と、推薦理由の紹介

- (会長) それぞれの被表彰候補者、団体について、質問・ご意見はありませんか。
- (委員) 被表彰者がだんだん増えてきているんですが、選考のボーダーラインについてどのように考えておられるのでしょうか。
- (事務局) 地域の活動を通して、地域のいろいろな団体から「これは表彰に値する」という方を推薦していただくことが大切だと思います。
- (委員) 地域の団体が推薦した人はみんな表彰しようという趣旨なのか、誰が見てもこれは表彰に値するという人のみ表彰するのか、もう一度、地域の各団体に事務局が趣旨説明をきちんとする必要があるのではないですか。
- 毎年出てくる問題で、選考基準が団体によってまちまちであり、地域の団体で「これは表彰に値する」と考え推薦しているが、協議会にあがってくると差があるのが分かる。
- そのあたりを今後どうするのかを決めていかないといけない。
- (事務局) 今後、事務局サイドで、厳選して来年度よりあげていくようにしたいと考えています。
- (会長) 川中のクリーン部のように本当に青少年が自主的・自発的に始め社会貢献になっているものと部活動で地域から依頼されて実施したものとでは、共に社会貢献したという意味からは同じですが、すこし意味合いが違いますね。
- (委員) 以前は表彰の推薦が各団体から出てこないという状況がありました。
- しかし最近は、地域がより学校と連携してという思いが強くなり、生徒会や吹奏楽部など地域行事に連携しやすいところが地域に出るようになり、このように多く推薦されるようになってきました。
- それはそれで良い流れだと思います。
- 出してくださいと事務局が依頼し推薦されたものをまた、事務局がセレクトするというのは事務局としても心苦しいと思いますし、この会の中で委員会を作るなどのワンクッションをおく工夫をされるのが良いと思います。

- (会長) 審査委員会などを作って必ずしも表彰されるとは限らないということでワークショップおくという意見だと思いますが、次回事務局より提案することとし、今回は推薦があったものすべてを表彰することによろしいですか。
- (委員) やはり各推薦団体に表彰についての説明をしてもらう必要があると思います。審査委員会があり必ずしも推薦したものが表彰されるとは限らないなど説明が必要だと思います。
- (委員) できるだけ、多くの青少年を表彰しようという方向は良いのではないかと思います。ただ、生徒会や児童会など学校の取り組みは、毎年児童生徒が違おうとしても、毎年表彰するのではなく、何年か経過してから再選されるよう基準を設けるべきだと思います。
- (委員) かなり広い範囲で基準が決められて推薦されているのですが、枠はこのままにしておいて各団体への説明そして、審査委員会を持つようにし、あまり基準をきつくしない方がいいと思います。
- (事務局) 団体に事前に説明する、審査委員会を作るなど工夫して意味のある内容にし、次回協議会で提案していきたいと思います。

## 協議事項(2)平成18年 川西市青少年育成フォーラムについて

<フォーラム実行委員長 澁野敏彦委員 提案>

- ・実行委員会の経緯について

過去の表彰者を中心に10名の実行委員を選出、高校生中心の実行委員

- ・テーマについて

「今のおとなはようわからん」「今の若者はようわからん」言う世代間ギャップを埋めることを中心に進めていきたい「青少年とおとなの心をつなぐ」

- ・内容について

### 総合司会

昨年度、青少年に司会をしていただいたことが、好評であった。

今年度もフォーラム実行委員の青少年2名に依頼。

### 第1部 青少年の表彰

ステージで、今年度も多くの青少年・団体を表彰することから、会長からの授与のあと、その場で簡単なインタビューを実施。

### 第2部 青少年とおとなによるパネルディスカッション

タイトル「今のおとなはようわからん」

司会を実行委員でおとなと若者をつなぐ世代(20代)の小畑さんと和田さんに。青少年による「おとなに対する本音」を出し合った後で、おとなが登場し、おとなとしてこう思っているということを述べていく形に。

意見交換(討論)をし、まとめます。

### 第3部 青少年の舞台発表

- ・最初は明峰高校で自由意志で音楽をしているリベストというバンド
- ・次は箕面自由学園のチアリーダー部  
全国大会で優勝しているレベルの高い団体です。
- ・最後に、川西市吹奏楽団のジュニアバンド  
各中学校吹奏楽部の有志で結成されているブラスバンドです。
- ・閉会で、3つのコラボレーションを。

#### 会場設営について

実行委員で役割分担し、準備をしていく。

#### 配布物について

- ・プログラム(日程、第3部演奏者紹介、青少年の表彰者紹介、推進団体の紹介)
- ・アンケート(ロビーにアンケート記入所の設置)
- ・推進団体等の啓発チラシ、ポスター(実行委員のデザイン)
- ・PRについて  
大会ビラ・ポスターを幼小中高養護学校に配布。  
高等学校PTAに新たに配布。  
広報掲示板、CATV文字放送、広報紙等。

(会長) 質問・ご意見はありませんか。

(委員) 青少年育成フォーラムの実行委員ですが、今回は青少年からおとなへの率直な考えを出させたいと考えています。まず、本音を聞いてそれから話し合いましょうという流れで進めていきたいと考えています。今回は青少年同士が話し合うという場を前面に押し出し、そのあとおとなが参加して心をつなぐということを考えています。

その翌週にPTAのフォーラムがあります。内容も似通っています。

今後、この青少年育成フォーラムとPTCAフォーラムと同時開催等考えていただきたいと思います。

(委員) おとなを対象にした青少年育成フォーラムから青少年も参画するものに形を変えてきています。

そのことについても、フォーラム終了後にご意見・ご感想をいただきたいと思います。

また、委員のみなさまにも、おとなの意見としてご発言よろしくお願いたします。

(委員) 「今のおとなはようわからん」というテーマにはとても興味があって、普段学校や家庭で話されている本音を集めて、是非出していただきたいと考えています。

- (委員) 実行委員の選出はどのようにしたのですか
- (委員) まず、どのような場であるのかをイメージできることが大事だと考えて、過去の表彰者の中から選出しました。みなさん、積極的に引き受けていただきました。
- (事務局) 案内チラシを青少年にも配布いたしました。多くの参加を考えており、各団体でも呼びかけをお願いしていただきたい。
- (会長) 少し気になるのは同じような時期に同じようなテーマでPTAが主催のPTCAフォーラムが行なわれていることですね。  
今後、合理的な方法を探ることも大事かもしれませんね。
- (委員) 参加については、青少年育成フォーラムは自由参加となっています。動員などの縛りはありません。その辺が難しいですね。

## 委員了承

### 5. 意見交流

- (会長) 協議事項はこれですべて終わりましたが、事務局の方から学校週五日制に関する実態調査の結果報告が出ていますので報告をお願いします。

#### <事務局報告 「完全学校週五日制にともなう児童生徒の実態調査結果報告」>

- (委員) 私が気になるのは親教育の必要性のところなんです、この項目はPTAがずっと関わっているところなんです、PTAの会議の中で各家庭1仕事ということで縛りを作るようにしています。親同士が関わるということを経験することが大切だということです。  
また、学校と家庭の連携を図るために学校の先生方が遠慮せずにPTAに学校からの要望を伝えていただくのが大事だと思います。
- (委員) 今の学校は保護者の方に気を使うのは事実です。  
「親教育」等という言い方を使うことは難しいですね。保護者の方は高い教育を受けていらっしゃることも多く、プライドの高い方が多いので学校からの要望を遠慮せずに伝えていくことには難しさを感じますね。
- (委員) 教師が地域に出ていくことに対して、批判的な教師もいるという話を聞きますが本当ですか。
- (委員) ある教師が地域で出ていることに対して、批判する教師はいません。
- (委員) 地域の行事に参加する教師が少ないと感じる。地域の行事に先生が出ていただく子どもがたいへん喜ぶし、活発になる。  
そのあたりから地域と学校の連携を考えていただきたい。
- (委員) 家庭訪問はありますか。教師と家庭とのつながりを親密にする必要がある

と思います。

地域も学校を絡めた運動会や文化祭なども行なっていたいただければと思いますが、また学校においても地域の方々と触れ合うような機会を持ってもらえたらと思います。

(教育長) 運動会がこうなければならないということはないです。新しい形としてそういうものに取り組んでいこうということであれば、教育委員会としてはバックアップしていきたいと考えています。

また、学校週五日制の問題については、ゆとりを活用し、子どもたちに豊かな生き方をということで行なわれていますが、それは子ども任せでは成立しないと思います。実態として、うまく活用できてないと思います。

私は理想的には、土日に休みがあるんだからある一定時間勉強してほしいなと思います。そういう働きかけは教師でないと難しいのかもしれませんが。学校週五日制の趣旨、具体的取り組みなどを保護者に伝え、そういう家庭をめざしてもらう必要があります。子どもと生きる力について、家庭でも考えていただく必要があります。その延長上に地域の行事があると思います。

このアンケートの中には読書の時間というのが出てこないんですが、子どもたちにもっと読書をという形で進めていますので期待できるかと思います。

最後に教職員の問題ですが、私自身は勤務する学校の地域の行事に参加するという事はなかったです。自分が住んでいる地域で活動をして過ごしました。それが基本だと思います。

地域に参加することは教師にも必要です。勤務する学校の行事に参加することで子どもたちや地域が活性化することも理解できます。

ただ、2つを同時にすることはできません。教師それぞれが選択すればよいことだと考えています。

## **6. その他**

(事務局より)

1月28日に青少年育成フォーラムを行います。ぜひたくさんの方の参加を呼びかけていきたいと思っています。チラシをさっそく送付させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

また、第3回青少年問題協議会は2月に行う予定です。

内容は、青少年育成フォーラムの結果報告及び反省と来年度についての青少年問題協議会の方向性、取り組み等を検討したいと考えております。

## **7. 閉会(15:30)**

会長より閉会挨拶。